

摩耶山へ行こう。

my  
mother  
mountain

# 摩耶詣祭

～摩耶山春山開き～

令和5年

3/25

(土)



馬が詣でる奇祭・摩耶詣

午前10時半～天上寺にて

● 関伽御供(関伽供)

あかごく(「あかごくう」「あかく」とも)  
産湯の井よりいのちのいのちの再生の象徴で  
ある関伽水を汲んでご本尊にお供えする儀式

● 菜の花御供(花菜供)

なのはなごく(「なのはなごくう」「はななく」とも)  
摩耶詣にゆかりの深い菜の花をご本尊に  
お供えする儀式

● 御馬詣 おうまもうで

詣でたお馬の厄を払い、息災を祈念して、  
花かんざしを授ける儀式

● 厄を払われたお馬のパレード

天上寺～掬星台

摩耶山春山開き

午前11時～掬星台にて

● 春を呼ぶだんじり囃子の演奏

―五毛御燈会・上野宮西会・篠原中老会―

● 摩耶修験回峰行者による柴灯護摩供

―山の安全祈願―

● お餅まきと摩耶昆布の配布

● 摩耶鍋販売(限定200食)

摩耶山の名物だった摩耶鍋が復活!

● 摩耶山のお土産・縁起物の即売

◆主 催 摩耶山観光文化協会(事務局は摩耶山天上寺内)

◆問合せ先 摩耶山 天上寺 TEL 078・861・2684

神戸市立六甲山牧場 TEL 078・891・0280

※当日午前7時の時点で暴風又は大雨の警報が発令の場合は開催中止

会いに  
きてね



◀花飾りをつけた  
ミニチュアホース



今年とは馬とア  
木曾チユガ  
ミニチュアホ  
ー参加!

◀摩耶山天上寺  
ホームページ



## 【摩耶詣の由来】

摩耶山には古くから旧暦二月の初午の日に、近郷近在の村びとが飼い馬を連れて天上寺に参詣し、馬(家畜の代表)の**息災と一家の無事繁栄を祈る風習**がありました。そして、厄払いののちに、馬屋にまつる厄除息災の護符を授かり、土産に摩耶昆布を求め、いただいた花かんざしで馬の頭を飾って労をねぎらい、ゆつくりと山をくだり帰路についたといひます。

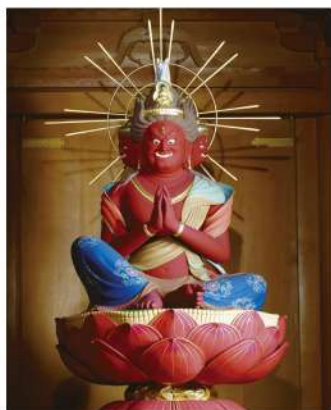
のどかな縁日で、西国の奇習・奇祭として全国に知られ、《摩耶詣》(摩耶参)として俳句歳時記の春の季語にも取りあげられ、多くの俳人が佳句を詠んでいます。

## 【摩耶詣の復活】

明治頃まで盛んであった摩耶詣も馬を飼う農家などがへり、大正期には細々とお参りが続いていました。

昭和に入ってからは、山内の僧のみで絵馬を飾り、十一面観音と馬頭観音のおん前でひそかに祈禱を続けてきました。

平成になって、関西の奇祭として知られていた「**摩耶詣**」の消滅をおしむ声が高まり、平成五年に六甲山牧場の馬を借りて「摩耶詣」の復活を試みました。



摩耶山天上寺の金堂にまつられている馬頭観音

平成七年阪神淡路大震災で中断。平成十四年に「摩耶山の春の山開き」を兼ねた行事として「摩耶詣祭」を復活させ、今日にいたっています。(当節の事情を考慮して、旧暦二月の初午の日に限定せず、今年三月二十五日(土)に執り行います)



御馬詣(天上寺 金堂前にて)

# 摩耶詣

## 春の季語

馬の子や親につれだつ摩耶参 正岡 子規  
 摩耶参り馬の薬も買ひにけり 寺野守水老  
 うららかに野曳き山越え摩耶参 吉田 笠雨  
 尾をつつむ馬古めかし摩耶参 河東碧梧桐  
 厚房の眞紅めでたし摩耶参 大谷 句仏  
 鞍につけて長々しさや摩耶昆布 松根東洋城  
 摩耶詣仔馬の旅をいとほしむ 矢田 挿雲  
 菜の花の夜目に白さや摩耶詣 飯田 蛇笏  
 摩耶詣筒の賽米鳴らしけり 吉田 冬葉  
 鬼の出る葛籠を負うて摩耶詣 星野 石雀  
 人馬の息揃つて弾む 摩耶詣 伊丹三樹彦  
 摩耶詣日和歩軽し馬も人も 五十嵐哲也  
 法被着て馬子は俳人摩耶詣 小路 紫峽  
 かはたれの灯のまだ残る摩耶詣 小路智壽子  
 物怖ぢの馬はなみちやん摩耶詣 山田 弘子  
 摩耶詣父母はいま喪せ賜ふ 石 寒太  
 大空を風渡りゆく摩耶詣 伊藤 虚舟



詣馬(花飾り・花かんざし・昆布をつけている)



蕪村の菜の花の句碑(天上寺境内)

— 菜の花や月は東に日は西に —  
 菜の花と摩耶山とはことのほか  
 ゆかりが深い。菜の花は灘区の  
 「歴史の花」です。